



北西方向（オード川のポン・ヌフ）より

カルカスが鐘を鳴らしている（Carcas sonne）が名前の由来ともいわれる、世界遺産カルカソンヌを紹介します。スペインとの国境に近い南仏に、欧州最大の城塞都市カルカソンヌ・シテがあり、歴史的城塞都市として1997年に世界遺産登録されています。二重の城壁（壁の全長3km）をめぐらせ52の塔が建ち、フランスでは「カルカソンヌを見ずして死ぬな」ともいわれるそうで、モン・サン・ミッシェルに次ぐ年間来訪者数とのこと。この高台に人が住み着いたのは紀元前6世紀で、前122年にはローマ人が城塞都市を築き、その後西ゴート族やイスラムの支配下や、カタリ派や十字軍の時代を経て、1224年にフランス国王領になったそうです。8世紀にカール大帝が5年以上に亘って城塞の包囲攻撃をしたときに、イスラムの女領主カルカスは、残り少ない食料を食べさせて太らせた豚を塔から城壁外に捨てさせ、まだまだ兵糧があると思わせてカール大帝を撤退させ、その時に町中の鐘を鳴らさせたとの伝説が冒頭の話です。

城塞の中のコンタル城やサン・ナゼール・バジリカ聖堂（ロマネスク様式とゴシック様式が混在したシテ内唯一の教会）は、11世紀から13世紀にかけて建てられ、今のような二重城壁は13世紀後半に完成したようです。南北に長い山手線を小さくしたような形のシテ、その城壁外東に大きな駐車場があり13世紀完成のナルボンヌ門から城塞内に入りました。



ナルボンヌ門



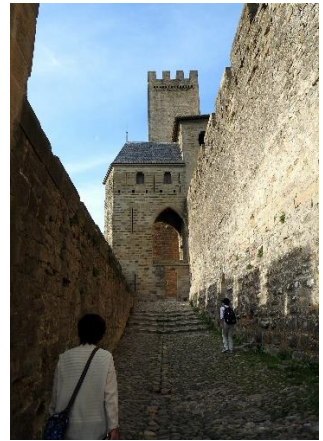




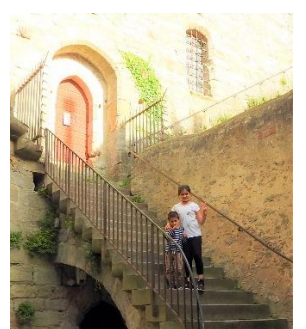
シテ内にあるコンタル城



ヴィオレール・デュクにより 19 世紀に復元された貯蔵塔



二重壁の間は、広いところと狭いところがある



シテには、レストランや店舗、住人の生活がある







シテ外に広がる平野、すぐ西に、19世紀の建築家ヴィオレ・ル・デュク(パリのノートルダム大聖堂修復工事にも関与)によってデザインされ、1859年竣工の、ゴシック様式のサン・ギマー教会が見えました。

カルカソンヌには、もう一つの世界遺産(1996年登録)、大西洋と地中海を繋ぐミディ運河があります。カルカソンヌ駅のすぐ南に運河が西から東に通る、そこに二つの閘門もあります。カルカソンヌの西北西80km程のトゥールーズでガロンヌ川から分かれて地中海のトー湖まで約240km、1681年開通の運河です。大西洋岸のボルドー等から地中海までの航路を約3000km短縮しジブラルタル海峡通行税も削減でき、一時期は周辺の産物の流通量増加に大貢献したそうです。最近運河クルーズ観光が日本のTVでも紹介されています。標高190mの分水嶺を越える為にさらに高いところにサン・フェレオル貯水池を造り、幾つもの人造湖、閘門や川を渡る運河橋もあり、それらがGoogle地図の衛星写真やストリートビューでも見ることができます。フォンセランヌ水門は水面の高低差21mを7段の閘門で調整しているそうです。閘門式運河のみでなく、オルブ運河橋等の水路の立体交差も珍しい光景です。水路の立体交差で舟は通りませんが、その47で紹介したポン・デュ・ガールや、国内では熊本県の通潤橋と山梨県大月の猿橋横の八ツ沢発電所導水路橋を思い出しました。



ミディ運河



二つの閘門間に舟を入れて高さを調整



カルカソンヌ駅

時刻表にある列車を待ったが、遅延で撮影できなかった

Google 地図参照

(写真撮影 2017.05.21)

- カルカソンヌ・シテ <https://www.google.co.jp/maps/@43.2067042,2.3637655,17.11z>
- ミディ運河 <https://www.google.co.jp/maps/@43.2175321,2.3502021,17.65z>
- サン・フェレオル貯水池 <https://www.google.co.jp/maps/@43.4392368,2.032734,15z>
- フォンセランヌ水門 <https://www.google.co.jp/maps/@43.3308371,3.2001088,17.16z>
- オルブ運河橋 <https://www.google.co.jp/maps/@43.3349322,3.2126329,17.43z>

上のURLは、下の「PDFはこちら」に入ればクリック可能です。

(2022.05.01)